

Dialog 31 Asking about responsibilities (1) 義務・責任について尋ねる(1)

口語訳

Roles: Heinrich=H, Kei=K

Heinrich is going to go over to a Japanese friend's house for dinner.

H: My friend, Hiro, invited me over for dinner, but I'm not sure about Japanese manners.

K: Like what?

H: For instance, should I bring something?

K: Hmm... you should probably bring something small – like some sweets.

H: What do I need to say when I meet his parents?

K: When you go into the house, you have to say “*ojamashimasu*”, and when you meet his parents, you have to say “*hajimemashite*”.

H: What about table manners? Do I have to use chopsticks?

K: You should try to use them.

H: OK. I'll try. I want to be polite.

K: Well, if you really want to be polite, you need to say “*itadakimasu*” before you eat.

ハインリッヒは日本人の友達の家
に夕食を食べに行きます。

ハ： 友達の浩（ヒロ）が夕食に招待してくれ
ただけど、日本のマナーについてわからな
いんだ。

ケ： たとえばどんなこと？

ハ： たとえば、何か持っていくべきか？

ケ： えーとね、なんかちょっとしたもの、
たとえばお菓子とかを持っていったらいいと思
うよ。

ハ： 彼のご両親に会ったらなんて言う
の？

ケ： 家に入るときには「おじゃまします」
って言わないといけないのと、彼のご両親に
会ったら「はじめまして」って言わないと。

ハ： テーブルマナーとかはどうなの？ お
箸を使わないとダメかなあ。

ケ： 使おうとしたほうがいいよ。

ハ： わかった。やってみる。礼儀正しく
したいもんね。

ケ： まあね、もしほんとうに礼儀正しくした
いなら、食べる前に「いただきます」を言わ
なくっちゃ。

Target Expressions

—義務・責任について尋ねる表現—



ダイアログに出てくる
“should”、“need to”、“have to”
の3種類をうまく使分け
て尋ねてみましょう。

「～すべき」「～した方がよい」という表現
は、程度や必要性の有無によって使う言葉が変
わります。

< should >

例： should I bring something?

you should probably bring something small – like
some sweets.

You should try to use them.

”should”が「～すべき」という意味で使われ、話
し手は「それは行うべきことだ」とかなり強く確信し
ています。



Kei's Advice

～なぜこう訳すの？

Teachers' Only 先生以外閲覧禁止

逐語訳

"manners"は複数形(～s)の状態で「マナー・行儀・作法・身だしなみ・風習・習慣・風俗」の意味を表します。"manner"だけだと「方法・やり方」といった意味になり、日本語でいう「マナー」の意味はありません。

"sure about～"で"about"以下の事柄について"sure"(確信)できるほどの知識が無い、ということなので、「～についてわからない」という訳になりました。

"Like what?" は相手の言葉を受けて「たとえばどんなこと？」と尋ねる表現です。(For example? よりくだけた言い方。)
ハインリックの言いたかったことをまとめると、
I'm not sure about Japanese manners like what I have to bring, say and use. となりますが、彼にはマナーについてわからないことがたくさんあったため、上記のように具体的には言えず、"like what"「～のようなこと」以下は言われていません。主はその"like what"の部分だけを取り出して会話を続けているのです。

ハインリックは日本人の友達の家
に夕食を食べに行きます。

ハ： 僕の友達、浩(ヒロ)が、僕を夕食に招待してくれました、しかし僕は日本の作法について確信がありません。

ケ： 何のようなことですか？

ハ： たとえば、僕は何か持っていくべきですか？

ケ： ふーむ、君はたぶん何か小さなもの、いくらかのお菓子を持っていくべきです。

ハ： 彼のご両親に会った時に僕は何と
言う必要がありますか？

ケ： 君が家の中に入る時に 君は「おじゃまします」と言わなければなりません、そして君が彼のご両親に会った時 君は「はじめまして」と言わなければなりません。

ハ： テーブルマナーについてはどうですか？

僕は箸を使わなければなりませんか？

ケ： 君はそれらを使おうとするべきです。

ハ： わかりました。僕はやってみます。

僕は礼儀正しくありたいのです。

ケ： ええと、もし君がほんとうに礼儀正しくありたいのなら、君が食べる前に「いただきます」を言う必要があります。

< need to >

例： What do I need to say when I meet his parents?

you need to say "itadakimasu" before you eat.

"need to"は「～する必要がある」という意味で、～以下の事柄を行う必要性の有無、又は、～以下で言ったことをどのように行う必要があるか、を尋ねたり示したりしています。

では何か言う必要性は前提としてあり、何を言う必要があるかを探しています。

は に答えています。"Have to"と交換して言うこともできます。

< have to >

例： you have to say "ojamashimasu"

you have to say "hajimemashite".

Do I have to use chopsticks?

"have to"は「～しなければならない」という意味で、～以下が強制・義務であるかどうかを尋ねたり示したりしています。

では箸を使うべき義務が自分にあるかどうかを尋ねています。

"Need to"と交換して言うこともできます。

箸使いも、言葉の使い分けも、難しい！



Target Expressions

～義務・責任について尋ねる表現～